



令和5年2月16日
浜北西高校 保健室

教室の換気は効果的に行われていますか？

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染防止対策の一つとして密閉空間を避けるために換気が重要であることがわかってきました。また、室内の二酸化炭素濃度が高くなると、眠気や倦怠感、頭痛等の症状が出やすくなり、勉強する環境に影響がでることもわかっています。

そこで、教室内の換気が十分できているか把握するために、昨年9月より、各HR教室にCO2モニターを設置しました。皆さんは、数値をみたことはありますか。毎日、保健委員が数値を確認して教室の換気に気を配ってくれています。



モニターではなく、実際に測定して値を確認してみようと、1月23日～26日の授業中に、保健委員が検知管による二酸化炭素濃度測定を行いました。授業開始25分後に、教室の中央にて空気を検知管に吸い込み、5分間放置して、検知管の変色する濃度を読み取りました。その結果は、下記のとおりです。

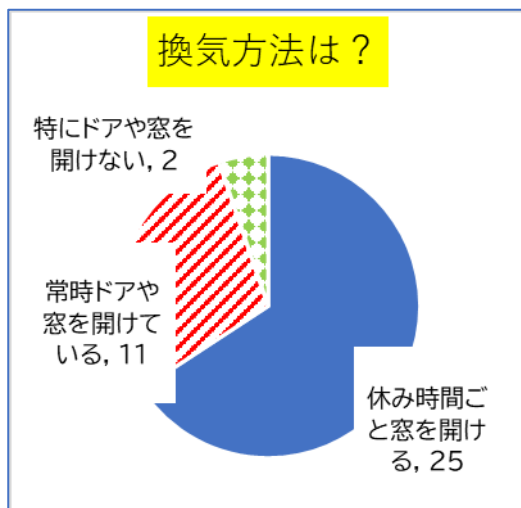
●各HR教室の検知管による二酸化炭素測定結果

学年	各教室の測定値（最低、最高）	1500ppm以下に適合
1年生	500ppm～1900ppm	6クラス
2年生	700ppm～1500ppm	7クラス
3年生	500ppm～2000ppm	5クラス

学校環境衛生基準では
1500ppm以下。
感染予防の観点からは
1000ppm以下が望ましいとされています。

授業中、窓やドアを閉めた状態の教室は、やはり二酸化炭素濃度が高い結果になっていました。

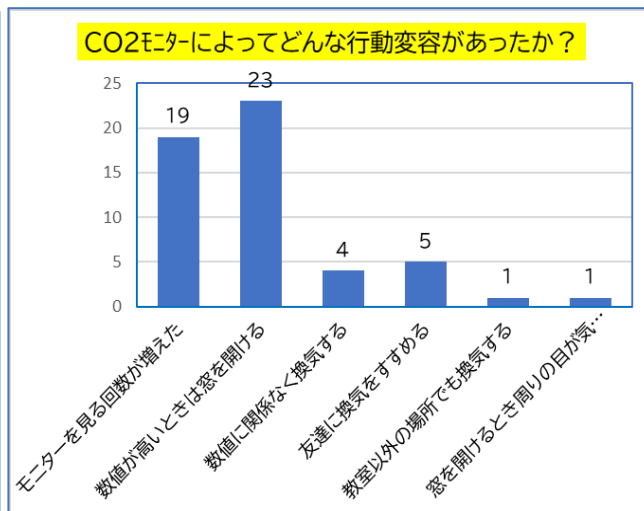
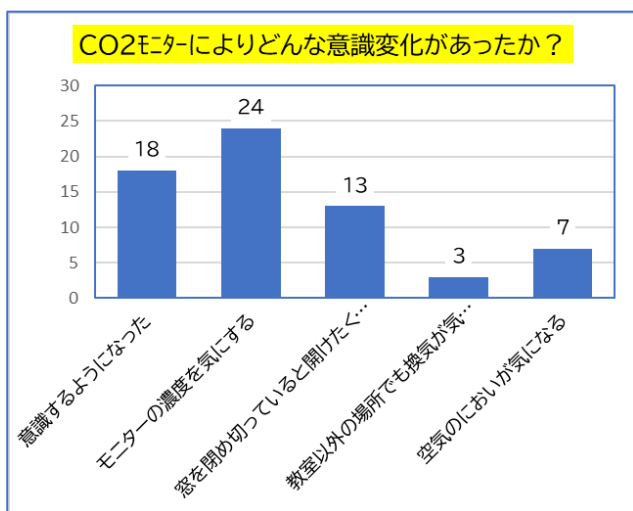
●生徒保健委員（38名）のアンケート結果より



寒さが厳しい時期でもあるので、教室の換気方法は、休み時間ごとに窓を開けて、換気を行っているクラスが多くなっています。

休み時間ごとに窓を開ける場合は、廊下側は窓を1ヶ所とドアを開け、窓側は窓を1～2ヶ所開けるパターンが多いようです。

常時開けている場合は、廊下側は窓やドアを少し開け、窓側は前方の窓や上部の窓を少し開けているパターンが多いようです。



二酸化炭素濃度が数値で見える化されたことにより、上記のように保健委員の意識の変化や行動の変容に繋がっていったことが分かります。

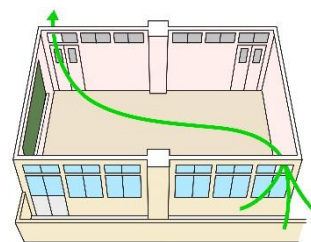
●どんな換気方法が効果的？

（「衛生管理マニュアルVer. 8」「学校環境衛生管理マニュアル」より）

可能な限り、**常時換気**を行います。

この時のポイントは対角に窓を開け、空気の流れを作ることが重要です。

- ⇒ 廊下側と窓側を対角に、10 cmから 20 cm程度を目安とします。
- 上の小窓や廊下側の欄間を開けると効果的です。



無理な場合は、30分に1回以上、数分間程度、窓を全開にします。

呼吸によって二酸化炭素が排出されるので、閉め切った空間の場合は、二酸化炭素濃度が上昇します。保健委員が行った測定の結果でも、授業中に窓を開けないときは、濃度が1500ppm以上と高くなっていました。実験では高校生40人が教室に在室していた場合、14分で二酸化炭素濃度は1500 ppmに到達すると言われていました。そのため窓を閉め切っていた場合は、50分の授業中に数回の換気が必要となります。

CO2モニターの数値を参考にして、どこの窓をどのくらい開ければ、二酸化炭素濃度が1000ppmを超えないよう維持できるのか、調整をお願いします。

保健室からのお知らせ

2/17(金) スクールカウンセラー来校
3/ 7(月) スクールカウンセラー来校

今年度はこれで終了です。
カウンセリングの申し込みは
保健室まで！！

長い時間一緒に過ごす教室の環境に目を向けて、快適に過ごせるよう、保健委員だけでなく、クラスみんなで協力していきましょう。

